

年次研修者振り返り

2年次 数学科 武井 文音

1年次研修では、数学の面白さや有用性を伝える活動を取り入れることと、アウトプットの機会を多く取り入れることを意識して授業を行った。一定の効果が得られた一方、応用力を育む授業に関しては課題が残っていた。

以上を踏まえ、2年次研修では以下の2点に重点を置いて授業を行った。

1点目は、数学と実生活とのつながりが感じられる活動を取り入れることである。昨年度の生徒の取り組み状況から、数学を実際に活用することができると実感すると学習意欲が向上することが分かった。このことから今年度は、昨年度も実施した木の高さを測る活動に加え、どちらの商品を購入する方がお得か考えてプレゼンを行ったり、実際に学級内でデータを取り、そのデータの傾向を分析したりする活動を取り入れた。生徒の感想では、「数学が実際に使えるとわかって楽しかった」「問題を解くときにイメージしやすくなった」との意見が9割以上であった。数学が苦手でも前向きに取り組む生徒も増えたと感じている。一方で、このような活動を取り入れる時間を捻出した結果、定期考査に向けた問題演習を行う時間が減ってしまい、点数が伸び悩んだ生徒が一定数出てしまった。基礎力の定着や定期考査対策の時間を確保しつつ、生徒の活動の時間を捻出することに課題がある。

2点目は、授業内で入試問題などの応用問題を取り扱うことである。今年度は担当している2学年の発展クラスを対象に行った。実際の共通テストの問題であると伝えると、多くの生徒が積極的に取り組む姿が見られた。しかし、ヒントを与えながら最後まで解くことができた生徒はごく一部で、途中で諦めてしまう生徒が多かった。この活動から、実際の入試問題はどのようなものか意識付けを行うことができた一方、扱った問題の難易度が高すぎたと感じている。また、本校の生徒は受験に数学を使う人数が少ないため、学習意欲の向上にはつながらなかったと考える。

2年次研修では、1年次と同様に応用力の定着に課題が残った。基礎力の定着と応用力の育成のバランスが難しいと感じている。3年次も有効な授業内容を考えて実践していく。

年次研修や他校での研究協議会を通して、他の先生方の実践とその効果を知ることができた。今後も研修や日々の自己研鑽を通してより良い授業を目指していきたい。